



中学校 新学習指導要領と学習評価

— 地理的分野を具体例に —

実践編

監修：元全国中学校社会科教育研究会会長

赤坂寅夫

協力：大阪市立十三中学校 教頭

岸上智弘

お茶の水女子大学附属中学校 教諭

渡邊智紀

はじめに	p.1
1. 南アメリカ州を例にした新たな学習評価の在り方と 指導計画案	p.6
2. 近畿地方を例にした新たな学習評価の在り方と 指導計画案	p.12

はじめに

1. 地理的分野の目標と評価の観点及びその趣旨について

このたび改訂された中学校の学習指導要領（平成29年3月告示）では、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力として、「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」の三つの柱が示されている。

各教科の「目標」については、この資質・能力の三つの柱に基づいて整理され、新たな学習評価に関する通知^{*1}によると「観点別学習状況の評価」については、学習指導要領に定める「目標」に準拠した評価として実施するものとされた。そのため「観点別学習状況の評価」は、学習指導要領の「目標」を基に作成することができるようになっている。

また、「観点別学習状況の評価」はこうした今次改訂による「目標」及び「内容」の再整理を踏まえて、従来の4観点（「関心・意欲・態度」

●地理的分野の目標（中学校学習指導要領より）

	(1)	(2)	(3)
目標	我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

●地理的分野の評価の観点及びその趣旨（改善等通知 別紙4より）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」から3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）に整理された。これを地理的分野において整理すると、以下のような形となっている。

※1（「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」平成31年3月29日）

この評価の観点を具体的な事例にあてはめてみると、例えば「知識・技能」では、地理的見方・考え方を生かして地図やグラフから地域の傾向を読み取らせ、その地域で見られる事象は何かを理解することなどが求められる。

また「思考・判断・表現」では、ある地域の写真を見て学習した知識を基に“このような景観や事象が生まれる背景には、地域の自然環境や地域どうしの結び付きがあるからだ”といった、多面的・多角的な視点を基に思考し、説明したり、話し合ったりすることなどが求められる。

さらに「主体的に学習に取り組む態度」では、諸地域の学習で考察した、地域の課題への対応

や実際の事例を振り返り，“この地域の事例を応用すれば，私たちの住む地域でもこのようなことができるのでは？”といったことを主体的に考えることなどが求められる。

2. 学習評価の充実に向けた評価時期の工夫

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター発行の「学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編」（令和元年6月）では，学習評価の充実に関わる評価時期について，以下のことが示されている。

●日々の授業の中では児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ，各教科における「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については，原則として単元や題材などのまとまりごとに，それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行う。

●学習指導要領に定められた各教科等の目標や内容の特質に照らして，複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価することを可能とする。

●Q1 1回の授業で，3つの観点全てを評価しなければならないのですか。

A. 学習評価については，日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要です。したがって観別学習状況の評価の記録に用いる評価については，毎回の授業ではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに，それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど，その場面を精選することが重要です。

（下線部 筆者）

評価時期について，新学習指導要領における地理的分野の内容にあてはめると，「単元」とは「中項目」が該当し，例えば大項目B「世界の様々な地域」であれば，その中の中項目である「(1)世界各地の人々の生活と環境」や「(2)世界の諸地域」を単元のまとまりとして評価規準を作成することができる。

ただし，単元＝中項目とのみ捉えるのではなく，「学習評価の在り方ハンドブック」記載の「単元や題材などのまとまり」に注目すると，各州や各地方ごとを「題材などのまとまり」として捉え評価規準を作成することも可能である。具体的には，大項目Bの中項目(2)「世界の諸地域」の小項目である①アジア州，②ヨーロッパ州…といった各州や，大項目Cの中項目(3)「日本の諸地域」の小項目である①～⑤それぞれを一つのまとまりとして評価規準を作成することも可能である。

さらに，「複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価することを可能とする」とあるため，例えば，大項目Cの中項目である「(1)地域調査の手法」と「(4)地域の在り方」を，学習の効果を高めるために（学習指導要領解説

新学習指導要領 地理的分野の内容

大項目	中項目	小項目
A 世界と日本の地域構成	(1) 地域構成	①世界の地域構成 ②日本の地域構成
B 世界の様々な地域	(1) 世界各地の人々の生活と環境 (2) 世界の諸地域	①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア
C 日本の様々な地域	(1) 地域調査の手法 (2) 日本の地域的特色と地域区分 (3) 日本の諸地域 (4) 地域の在り方	①自然環境 ②人口 ③資源・エネルギーと産業 ④交通・通信 ①自然環境を中核とした考察の仕方 ②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方 ③産業を中核とした考察の仕方 ④交通や通信を中核とした考察の仕方 ⑤その他の事象を中核とした考察の仕方

社会編p.72より) 統合した一つの単元と捉え、評価規準を作成することも可能であると考えられる。

これら学習評価の充実に向けた評価時期の工夫については、国立教育政策研究所などから今後示される資料などを十分参考にさせていただきたい。

3. 具体的な指導計画案から新たな学習評価の在り方を考える

〈主体的に学習に取り組む態度〉の扱い方

本資料では現行教科書を基に、「世界の諸地域」の中から「南アメリカ州」を、「日本の諸地域」の中から「近畿地方」の指導計画案を例示した。

中学校における新たな学習評価は令和3年度(2021年度)から開始となるが、本資料に示す指導計画案は、帝国書院版の現行教科書の具体ページを用いた指導案をベースに、3観点の見取りの箇所、特に「主体的に学習に取り組む態度」についての学習評価の具体例を示すことに重点を置いている。これは、現時点で新たな学習評価の在り方を考えていく上で有効であると判断したからである。また、「世界の諸地域」と「日本の諸地域」それぞれで1案ずつ掲載したのは、「世界の諸地域」については、新学習指導要領で重視された「地域で見られる地球的課題」をどのように扱うか、「日本の諸地域」については、「中核的考察の柔軟化」と「地域の在り方につながる考察」を、指導計画案で例示しようという考えからであり、これにより、世界と日本の地誌学習の違いや差についても提示したいと考えている。しかしながら、現段階では、新たな学習評価に関しての実践は限られたものであるため、今後発表される資料を十分に参考にさせていただきたい。

新たな学習評価の在り方で、最も注目されるのは、上述の通り、やはり「主体的に学習に取

り組む態度」の扱い方であろうかと思われる。「学習評価の在り方ハンドブック」によると、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の側面として、

- ① 粘り強い取組を行おうとする側面
- ② ①の取組の中で、自らの学習を調整しようとする側面

の二つがあり、これらは別々のものではなく教科等の学びの中で相互に関わり合うものとされている。特に②は、「自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面」であり、「評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたり」して適切に評価することが求められている。本資料掲載の二つの指導計画案でもこれらを意識し、「単元を貫く問い」を設定し、各時間の内容に合わせ生徒が思考しやすいよう具体的な〈問い〉の形で問いかけ、学習過程の中でワークシートの活用や意見交流を行う場面を工夫した。各指導計画案での各時間での〈問い〉に注目いただきたい。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価するものとされている。そのためノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況などから総合的に評価することとし、特定の記述や場面のみを取り出して評価することではないとされている。このことから「主体的に学習に取り組む態度」の評価は学期を通して、

あるいは中項目の学習期間など長いスパンの中で評価し、評定のための資料として活用することが標準として考えられる。しかし、評定のための資料として活用しないものの、日常の授業改善につなげる評価として、前述したように小項目を一つの題材などのまとまりとして捉え、そのまとまりの中での「主体的に学習に取り組む態度」の評価を積み上げ、中項目の「内容のまとまりごと」の「主体的に学習に取り組む態度」の評価として総括することも可能といえる。

本資料では、第1時の「単元を貫く問い」の設定の後に、「単元を貫く問い」に対して、要因や背景、実情を予測し、どう追究しようとしているかを発言やワークシートの記述から評価し、最後の時間の「新たな問い」に対する自分の考えの再構築に関する発言や、ワークシートの記述及び各時間での取り組みの状況から「主体的に学習に取り組む態度」を評価することとした。

〈問いと展開の工夫〉

本資料掲載の指導計画案は、教科書や地図帳の資料をこれまでよりも多く活用する場面を盛り込む以外は、学習内容や学習過程において現行学習指導要領下での実践と大きく異なるところはない。しかし、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」や新たな評価としての「主体的に学習に取り組む態度」の観点から、特に導入部分とまとめの部分を工夫している。まず第1時では「単元を貫く問い」の設定とそのためを中心教材を考えた。第2時以降では「単元を貫く問い」を意識しつつ、それを「具体的な問い」の形で問いかけることにより、理解や思考の視点を明確にし生徒が具体的に活動できるようにしている。後半では、それまでの学習を踏まえて本質に迫り、深く学ぶための「新たな問い」を設定し、それに対する考えを記述したり意見交換したりする場面を取り入れた。そして最終時では、既習事項を振り返って「単元

を貫く問い」について自分事として考え、理解の状況を振り返ることができるような工夫とした。例えば近畿地方の事例では、環境問題への系統的な思考活動として、自分事としての環境問題への価値判断を求める活動とし、「ブラジルでの環境問題」→「近畿地方の環境問題」→「自分事としての環境問題」の流れをつくることで、どう思考が深まり自分事として自分の考えを構築しているかを評価できるよう工夫した。また内容的にも「C(4)地域の在り方」や公民的分野「C(2)イ 地方自治」や「D(2)よりよい社会を目指して」につなげる工夫を行っている。これらの工夫によって、単元の学習過程全体を通して、ワークシートへの記述や発言内容から、意欲や思考の変容を読み取り、「主体的に学習に取り組む態度」の評価が可能になると考える。

「内容のまとまり」の中で「主体的に学習に取り組む態度」を評価しようとする場合、生徒に粘り強い取り組みを行おうと思わせるエネルギーとしての関心・意欲を喚起させることが重要であり、そのためには導入段階での教材の提示と発問の工夫が必要である。これについては、『中学校 社会科のしおり』2019年度第2学期号所収の地理学習 トラの巻⑩「生徒を引きつける導入の在り方」を参照されたい。

〈単元の指導計画案と構造図〉

一般的に単元の学習過程を示す単元の指導計画案として、単元的全指導時数、各時間の学習内容や学習活動及び評価などが時系列で示されている。しかし新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善や新たな評価としての「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方においては、これまで以上に「内容のまとまり」を意識した学習活動や評価が求められる。そのため、時系列としての指導計画だけでなく、「単元を貫く問い」が

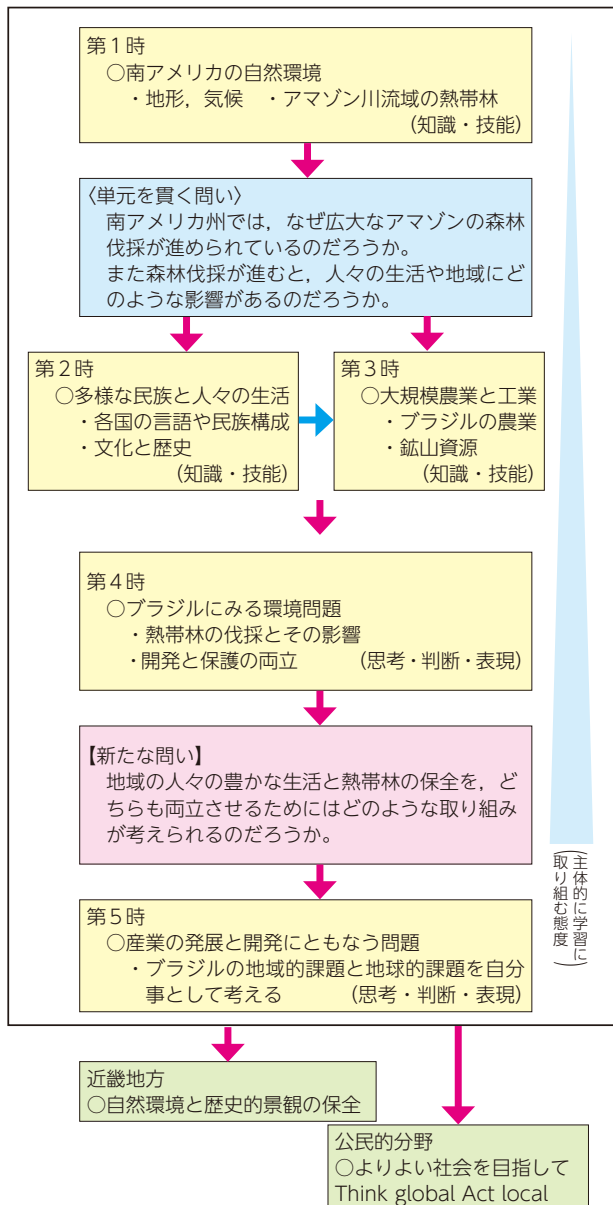
どこでどのようにして設定され、それに迫るための学習活動がどのように展開されるのか、どの学習が他の学習とどうつながり関連付けられるのか、解決の活動にどう結びついてまとめられるのか、その後、他の単元・他の分野の学習にどうつながるのか、それらのことを概観＝可視化できる構造図が今後求められるであろう。

本資料の二つの事例では、第1時での州や地方の自然環境の大観から、第1時のまとめで「単元を貫く問い」を設定しているが、単元の内容によっては第1時・第2時の学習を通して第2

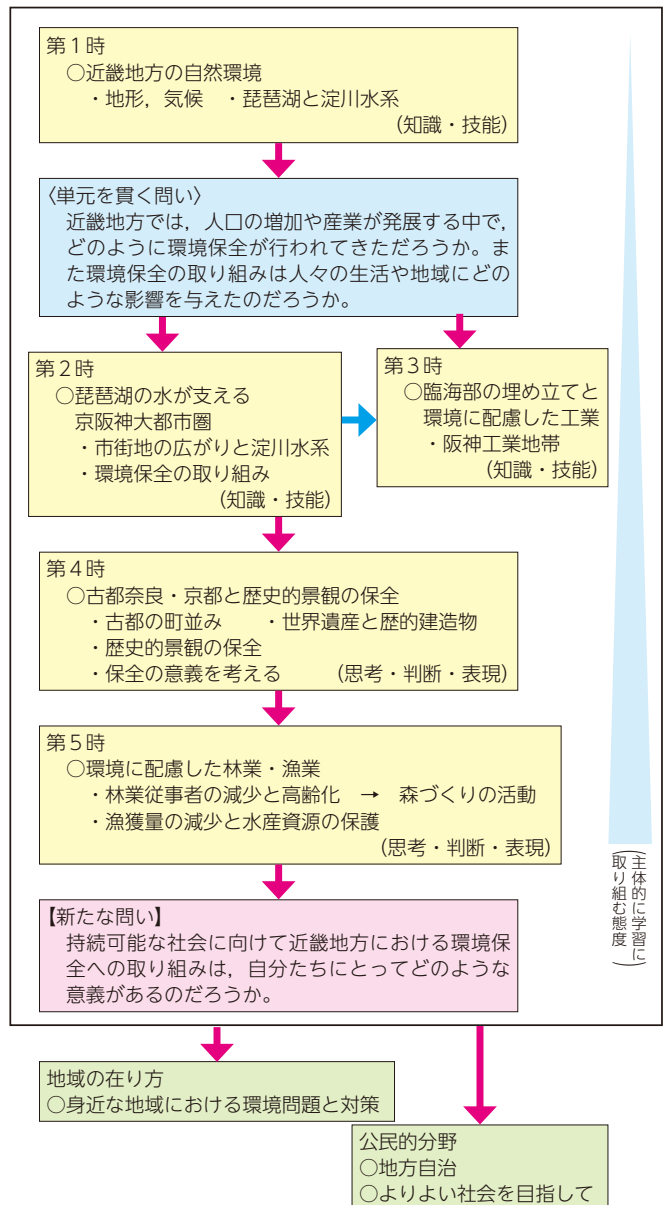
時のまとめで「単元を貫く問い」を設定することも可能である。いわば単元の構造図は単元の学習の設計図であり、授業者の指導観・教材観を可視化した授業デザインの図である。

以上、「地理的分野での新たな評価の在り方」についてまとめてみたが、新たな学習評価に関しての実践は限定されるものではない。今後発表される国立教育政策研究所の資料や各地の実践研究を参考にしながら、十分な準備や検討を経て取り組んでいただきたい。

【「南アメリカ州」の単元構造図】



【「近畿地方」の単元構造図】



南アメリカ州を例にした 新たな学習評価の在り方と指導計画案

1. 単元指導計画案作成におけるポイント

(1) 新学習指導要領との関連

本単元は、帝国書院版の現行教科書を用いて、平成29年3月告示 学習指導要領（以下、新学習指導要領）地理的分野「B 世界の様々な地域 (2)世界の諸地域 (5)南アメリカ」に関する内容で構成したものである。この中項目「(2)世界の諸地域」では、空間的相互依存作用や地域など（地理的な見方・考え方）に着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を通して、次のような知識及び思考力・判断力・表現力等を身に付けることが求められている。

<知識>

- ・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。
- ・世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

<思考力・判断力・表現力等>

- ・世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

（内容の取り扱い）のイに「主題については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象を取り上げるとともに、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げる」とあることから、主題を「ブラジルにおける森林伐採と開発に関する課題」とし、森林と耕地面積の変化、農産物の生産、生物多様性

などを、地域の産業や人々の生活などと関連付けて多面的・多角的に考察することで、持続可能な開発に関わる一般的課題とブラジルにおける地域特有の課題とを捉えさせることとした。そして、この主題に基づき、「単元を貫く問い」を設定した。

(2) 教材や資料の工夫

本単元では、「ブラジルにおける森林伐採と開発」が主題であることから、主題を的確に把握させるために、アマゾン川流域の熱帯林の様子と分布が読み取れる写真資料・地図、熱帯林の伐採と開発の様子と分布が読み取れる写真資料・地図・統計資料が課題設定のための中心資料となる。それらの資料を拡大したり、より具体的にわかりやすくなるよう加工したりして、生徒が課題意識や疑問をもてるような資料として準備し活用したい。その際、デジタル教科書を活用したり、ICT機器を活用したりするなどの工夫も考えられるが、機器に頼らなくとも、読み取るポイントを指示することが支援の工夫として大切である。

また、本単元での「ブラジルにおける森林伐採と開発」に関わる課題解決に迫るためには、まず教科書や地図帳の資料等を十分活用して、南アメリカ州の自然、歴史的背景、生活・文化、産業に関わる地域的特色を大観させ、地域的特色を理解させる学習を展開する必要がある。そこでの学習においては、生徒に課題の理解や解決につながる教材・資料の収集と活用を意識させたい。

本単元の後半では、課題について様々な立場から多面的・多角的に追究する学習になることから、「ブラジルにおける森林伐採と開発」と

いう課題に対して多様な立場の意見を踏まえながら考察・主張させたい。そのためには、例えば、ブラジル政府、農民、先住民、環境団体、地元企業、外国企業、外国政府等のこの課題に対する多様な立場での意見・主張や、その根拠となりうる資料も用意しておきたい。なお、自分事として課題解決に取り組ませるために、ブラジルと自分たちとの生活との関わりを意識させることも大切であることから、日本からの移民、日系人、日本の企業の進出、日本との貿易等の資料を用意し、生徒にブラジルとの関わりを意識させるなどの工夫もしておきたい。そのためには現行教科書の第5時の「産業の発展と開発にともなう問題」の内容構成を見直して展開する必要がある。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

本単元は「ブラジルにおける森林伐採と開発」という課題で、地球環境問題としての一般的課題とブラジルにおける地域的課題の両面から追究していく。単元前半では、自然、歴史的背景、生活・文化、産業に着目して南アメリカ州全体の地域的特色を追究するが、各時間の最後に必ず、「単元を貫く問い」に戻ることで、課題解決の視点を忘れないよう工夫している。後半では、ブラジルの農業と工業の変化に着目し、農業・工業の開発と森林伐採の問題の相反する課題を見いださせる。そして、単元を貫く問いを踏まえ、新たな問いを提起し、どうすればその両立が図れるかについて、また、日本とブラジルとのつながりから、ブラジルにおける開発と環境保護の問題は自分たちの生活との関わりをもつ問題であることに気づき、持続可能な社会

の実現のためにブラジルの課題を自分事としてどう考え解決するかを考察する学習を展開する。

上記の学習を展開するために、「単元を貫く問い」を工夫するとともに、第1時でその問いをもたせるための教材として第1時の後半で教科書P.96②「アマゾン川流域で拡大する熱帯林の伐採」の写真を提示する。

2. 単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

- 南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、その地域的特色を自然、歴史的背景、生活文化、産業の面から大観し理解するとともに、地球的課題である「森林の保護と開発」の在り方をめぐる問題について、ブラジルにおける事例を通して、必要な情報を適切な資料から読み取りまとめ、理解する。
- 南アメリカ州で見られる地球的課題（森林の伐採）の要因や影響、及び解決に向けた取り組みの在り方を、ブラジルにおける森林の伐採と開発の関係に着目し、地域的特色と関連付けながら多面的・多角的に考察し、表現する。
- よりよい社会の実現を視野に、森林保護と開発をめぐる課題に対して、自分たちの生活とのつながりを踏まえながら、主体的に追究し解決しようとする態度を養う。

(2) 評価規準（案）

単元を貫く問い：「南アメリカ州では、なぜ広大なアマゾンの森林伐採が進められているのだろうか。また森林伐採が進むと、人々の生活や地域にどのような影響があるのだろうか。」

評価の観点	評価規準
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、その地域的特色を自然、歴史的背景、生活文化、産業の面から大観し理解している。 ・地球的課題である「森林の保護と開発」の在り方をめぐる問題について、必要な情報を適切な資料から読み取りまとめるとともに、ブラジルにおける事例を通して理解している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカ州で見られる地球的課題（森林の伐採）の要因や影響、及び解決に向けた取り組みの在り方を、ブラジルにおける森林の伐採と開発の関係に着目し、自然、歴史的背景、生活・文化、産業などの特色と関連付けながら多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に、森林保護と開発をめぐる課題に対して、自分たちの生活とのつながりを踏まえながら、主体的に追究し解決しようとしている。

3. 南アメリカ州の指導計画案（5時間扱い）

時間（学習課題）	学習活動	◇指導上の留意点【評価】
<p>①南アメリカ州の自然環境（広大な熱帯林や世界最長の山脈がある南アメリカ州では、地形や気候にどのような特色がみられるのか。）</p> <p>☆単元を貫く問いの設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書P.88-89の写真を基に、南アメリカ州について知っていることや国名を発表し、地図帳で位置を確認する。 ○地図の標高に着目し、山脈・盆地・高地・高原や平野及びアンデス山脈、アマゾン川の広がりを読み取る。 ○マナオス、リマ、ブエノスアイレスの雨温図から三都市の気候の特色を読み取る。 <p>☆教科書P.90②の写真や地図帳P.67①の図からアマゾン川流域に熱帯林が広がっていることを読み取り、P.96②の写真の特異な現象に気づき疑問をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒からの回答がなかった写真についてもふれて州の全体像をイメージづける。 ◇赤道の位置や南北の緯度を読み取ることや同緯度同縮尺の日本と比較することで、南北の広がりや長さを理解させる。 ◇ブエノスアイレスの気温の変化から日本と四季が逆であることに気づかせる。 <p>【知識・技能】 「南アメリカ州の自然環境の特色を資料から読み取り、大観できているか」を評価する。</p> <p>☆P.96②の写真の比較から森林伐採の拡大に気づかせ、その規模の大きさを読み取らせ、単元を貫く問いへ導く。</p>

【単元を貫く問い】 南アメリカ州では、なぜ広大なアマゾンの森林伐採が進められているのだろうか。また森林伐採が進むと、人々の生活や地域にどのような影響があるのだろうか。

	☆問いについての予測を立てる。	【主体的に学習に取り組む態度】 「フィッシュボーンの写真から森林伐採の拡大に気づき、森林伐採の原因や影響について予想しているか」を評価する。
②多様な民族と人々の生活 (南アメリカの国々の文化には、どのような特色がみられるのか。)	○教科書P.92①のリオデジャネイロのカーニバルの写真とP.55⑤のイタリアの謝肉祭の写真を比較し、気づいたことを発表する。 ○教科書P.93③の地図から、各国の主な言語や人種・民族構成を読み取り、ヨーロッパとのつながりや先住民の多い地域を考える。 ○サンバの音楽と太鼓からアフリカの文化との歴史的なつながりを考える。 ○教科書P.93④の日本人街の写真と文章資料からブラジルに渡った日本人について理解し、現在の日本とブラジルとの関係を考える。 ○先住民がアマゾン川流域では焼畑農業など、伝統的な生活を営んできたことを理解し、開発と観光化による生活の変化を考える。	◇「カーニバル」の意味から共通点に気づき、ヨーロッパとのつながりに気づかせる。 ◇言語や宗教からスペイン、ポルトガルとのつながりに気づかせる。 ◇北アメリカのジャズやブルースとともに、植民地化の歴史を振り返らせる。 ◇ブラジルで活躍する日系人の存在とともに、教科書P.238の地図・グラフ・写真や文章から現在の日本の工場等で働く日系ブラジル人が多いことにふれ、相互の関わりの強さに気づかせる。 ◇教科書P.93図⑤から焼畑農業のサイクルを理解させ、森林減少につながる行為であることから森林伐採の初歩的な要因に気づかせる。
南アメリカの国々の文化には、どのような特色がみられるのか。		
	☆単元を貫く問いについて、本時で学習したことを生かし、関連を考える。	【知識・技能】 資料から「南アメリカの人種・民族構成を読み取り、ヨーロッパや日本とのつながりと特色ある文化、先住民の伝統的な生活が変化していることを理解しているか」を評価する。
③大規模化する農業と発展する工業（南アメリカの国々では、産業にどのような変化がみられるのか。)	○コーヒー栽培の写真を導入とし、教科書P.94②④のグラフ、P.95⑤の地図より南アメリカ州での主な農畜産物を読み取る。 ○コーヒー栽培、パンパにおける肉牛の飼育の歴史的背景を理解する。	◇記号だけでなく土地利用にも着目させ、土地と気候に合わせた農産物が作られていることに気づかせる。 ◇前時のヨーロッパ人の進出と植民地化の歴史との関わりを考えさせる。

南アメリカの国々では、産業にどのような変化がみられるのか。

- ブラジルは、教科書P.95⑧の輸出品の変化のグラフからかつてはコーヒー豆に依存したモノカルチャー経済だったことをつかむとともに、近年輸出が増えているもの（鉄鉱石等の鉱産資源、機械類、大豆、肉類）を読み取る。
- 大豆、肉類がブラジルのどこで栽培・飼育されているかを地図帳の資料から読み取る。
- 地図帳P.68図⑤の鉄工業の分布図から、鉄鉱石の産地や工業の中心地を読み取るとともに、その輸出先に日本が含まれていることに気づく。
- 大豆畑や牧場の拡大、鉄鉱石の採掘がアマゾン開発の一部であることに気付く。
- ☆単元を貫く問いについて、本時で学習したことを生かし、関連を考える。

- ◇モノカルチャー経済については既習のアフリカ州での学習を振り返る。
- ◇教科書P.95⑦、⑥より、ブラジル以外の国は鉱山資源に依存していること、ブラジルはモノカルチャー経済から脱却し、BRICsと呼ばれる新興国の一つとなったことを補足する。
- ◇地図帳P.68図⑥の地図やグラフからバイオ燃料の原料としてサトウキビ栽培が、世界的な大豆需要増によって栽培が増えていることを指摘する。
- ◇地図帳P.68⑧のグラフより、ブラジルから日本への輸入額の1/4は鉄鉱石であることに気づかせ、既習の日系人とのつながりも含め、経済面での強いつながりから、次時以降のブラジルの環境問題との関わりを意識づける。

【知識・技能】

資料から「南アメリカの国々の産業の特色を読み取り、農業や鉄工業の発展がアマゾンの森林伐採と関連することを理解しているか」を評価する。

④ブラジルにみる環境問題（アマゾンをはじめとするブラジルにおける開発は、地球環境や人々の生活にどのような影響を与えているのか。）

- 単元の導入で見た教科書P.96②の写真をGoogle Earthなどで拡大し、P.97③と合わせて、熱帯林の伐採地域の規模や用途を再確認する。
- 既習の知識および、授業で収集した資料を活用して、単元を貫く問いについての答えを図に整理しワークシートにまとめる。
- 教科書P.97④のグラフから熱帯林伐採が抑えられていることを読み取り、変化の理由を考える。

- ◇写真の縮尺から自分の都道府県の広がりと比較し、伐採の規模の大きさに気づかせ、道路とその周辺の農地・都市の開発により、木材の輸出や農産物の生産、輸出を行い、豊かな生活を得ようとする人々がいることを考えさせる。

アマゾンをはじめとするブラジルにおける開発は、地球環境や人々の生活にどのような影響を与えているのか。

○ブラジルの熱帯林伐採の影響を考え、地球規模の環境問題であることを理解するとともに、バイオ燃料、ユーカリの植林の事例から、開発と保護の両立は簡単ではないことに気づく。

☆これまでの学習を踏まえ、地球的課題に迫る「新たな問い」を設定する。

◇生態系への影響や地球温暖化などから環境保全の意識が高まり、保全の取り組みが進んでいることに気づかせるとともに、ブラジルの人々の生活向上や先住民の昔ながらの営みなど、立場が複雑に絡み合うローカルな課題でもあることを意識づける。

【思考・判断・表現】

資料から「アマゾンの熱帯林伐採の状況と変化を読み取り、その要因と影響について多面的・多角的に考察し、適切に表現しているか」を評価する。

【新たな問い】「地域の人々の豊かな生活と熱帯林の保全を、どちらも両立させるためには どのような取り組みが考えられるだろうか。」

⑤産業の発展と開発にともなう問題（経済の発展と熱帯林保全を両立するために、どのような取り組みが考えられるか。）

☆自分の考えの再構築

○前時の終わりに設定した「新たな問い」について、様々な立場に分かれて、開発や熱帯林保全に対する捉え方を考える。

○開発と環境保全の両立について、様々な立場から発表し合い、立場による考え方や取り組みの姿勢の違いに気づく。

○「持続可能な発展」の考え方について確認したうえで、そのためにどうあるべきか、様々な立場を踏まえ意見交換し、多面的・多角的に考察する。

☆ブラジルと関わりが深い日本国民としてこの問題をどのように考えるか、自分の考えをまとめる。

◇生活班等を活用し、開発業者、農民、先住民、ブラジル政府、環境団体等の立場のグループに分け、既習の内容を振り返りながら、それぞれの立場でのこの問題に対する捉え方やそれぞれの立場でできることを考えさせる。

◇各班をエキスパートと捉え、各班のメンバーが一人ずつ別々の班に移動し、意見交換する。

◇多様な意見を知ることがねらいであり、一つの意見に収束させる必要はない。

【思考・判断・表現】

熱帯林の開発と保全の両立について、「様々な立場を踏まえ多面的・多角的に考察し、適切に表現しているか」を評価する。

【主体的に学習に取り組む態度】

これまでの単元全体の学習を踏まえ、「ブラジルの熱帯林開発と保全の問題を自分事として捉え、考えをまとめているか」を評価する。

近畿地方を例にした 新たな学習評価の在り方と指導計画案

1. 単元指導計画案作成におけるポイント

(1) 新学習指導要領との関連

本単元は、帝国書院版の現行教科書を用いて、平成29年3月告示 学習指導要領（以下、新学習指導要領）地理的分野「C 日本の様々な地域 (3)日本の諸地域 (5)その他の事象（環境問題・環境保全）を中核とした考察の仕方 近畿地方」に関する内容で構成したものである。この中項目「(3)日本の諸地域」では、空間的相互依存作用や地域など（地理的な見方・考え方）に着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のような知識及び思考力・判断力・表現力等を身に付けることが求められている。

<知識>

- ・幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。
- ・①～⑤までの考察の仕方でも取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。

<思考力・判断力・表現力等>

- ・日本の諸地域において、扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

（内容の取り扱い）のウに「地域の考察に当たっては、そこに暮らす人々の生活・文化、地域の伝統や歴史的な背景、地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意すること」とあることから、主題を「近畿地方における環境

保全に関する課題」とし、琵琶湖の環境保全、阪神工業地帯の発展と環境対策、古都奈良・京都の歴史的景観の保全などを、産業や人々の生活と関連付けて多面的・多角的に考察して、持続可能な開発に関わる一般的課題と近畿地方における地域特有の課題とを捉えることとした。そして、この主題に基づき、「単元を貫く問い」を設定した。

(2) 教材や資料の工夫

本単元では、「近畿地方における環境保全」が主題であることから、主題を的確に把握させるために、琵琶湖を水源とする京阪神大都市圏の様子と範囲が読み取れる地図、写真資料、環境保全と開発の様子が読み取れる写真資料、地図、統計資料が中心資料となる。それらの資料を拡大したり、より具体的にわかりやすくなるよう加工したりして、生徒の目線で読み取りやすい補足資料を準備し活用する。また、これまで世界と日本の学習において資料の読み取りの技能はある程度身に付いているはずだが、この段階においても読み取りが苦手な生徒のために読み取る視点を示したり、読み取る箇所を指示したりするなどの支援の工夫が必要である。

また、本単元での「近畿地方の環境保全」に関わる課題解決に迫るために、まず教科書や地図帳の資料等を十分活用して、その前提となる学習として、近畿地方の自然環境や環境保全の歴史的背景、人々の文化、産業に関わる教科書や地図帳の資料等を活用して近畿地方全体の地域的特色を理解する学習を展開するが、そこでの学習においても、生徒に課題の理解や解決につながる教材・資料の収集と活用を意識させた。例えば、自分たちの生活との関わりを意識

させるために生活排水への対策としての下水道整備、近畿地方で製造されている歯ブラシやボタン、自転車のような身近な生活用品等の教材・資料を収集・活用させたい。

本単元の後半では、課題について様々な立場から多角的に追究する学習になることから、「近畿地方における環境保全」という課題に対して多様な立場の意見を踏まえながら考察・主張させたい。そのためには、例えば、住民、製造業者、観光業者、農林水産業者、環境団体、地方公共団体等のこの課題に対する多様な立場での意見・主張や、その根拠となりうる資料も用意しておきたい。なお、自分事として課題解決に取り組ませるために、環境保全の取り組みと自分たちとの生活との関わりを意識させることも大切であることから、琵琶湖の水質汚濁や阪神工業地帯の公害、歴史的景観の破壊についての資料を用意し、生徒に環境保全との関わりを意識させるなどの工夫もしておきたい。そのためには現行教科書の第2時の「琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏」の内容構成を見直して展開する必要がある。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

本単元は「近畿地方における環境保全」という課題で、環境問題としての一般的課題と近畿地方における地域的課題の両面性で追究していく。単元前半では、自然環境、水源の保全、これまでの取り組みに着目して近畿地方全体の地域的特色を追究するが、各時間の最後に必ず、「単元を貫く問い」に戻り、課題解決の視点を忘れないよう工夫している。後半の第3時では、阪神工業地帯の現況と公害の発生とその対策としての取り組み、第4時では、古都奈良・京都を中心とした観光業の発展とそのため歴史的景観の保全の取り組みを扱い、「工業・観光業の発展」と「公害・景観破壊」が相反する課題であることに気づかせる。ここでは、「南アメ

リカ州」でのブラジルの森林保護への取り組みを多面的・多角的に思考する学習を踏まえ、歴史的景観の保全の意義について多面的・多角的思考＝価値判断の活動を行う。さらに第5時では、新たな視点として林業と漁業の現況と課題から環境保全の取り組みを扱った後、これまでの学習の振り返りとして持続可能な社会の実現のために近畿地方の環境保全の意義を自分事として捉え、価値判断することでまとめとする。

上記の学習を展開するために、第1時で問いをもたせるための教材として琵琶湖と淀川水系に関する教科書P.196①、P.197④、⑤の写真と地図帳P.95-96の地図、P.95②の京都・奈良の世界遺産の位置を示した地図を提示し、単元を貫く問いを設定した。

2. 単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

- 近畿地方における環境保全について関心を高め、自然環境や人々の生活、産業の面から大観し、地域的特色を理解できるようにする。
- 環境保全の視点からみた近畿地方の地域的特色に関する様々な資料を収集することができるようにする。また、収集した資料の中から有用な情報を選択し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができるようにする。
- 近畿地方における環境保全に関する課題を、自分たちの生活との関わりとよりよい社会の実現を視野に主体的に追究し解決しようとする態度を養う。

(2) 評価規準 (案)

単元を貫く問い：「近畿地方では、人口の増加や産業が発展する中で、どのように環境保全が行われてきたのだろうか。また環境保全の取り組みは人々の生活や地域にどのような影響を与えたのだろうか。」

評価の観点	評価規準
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方で暮らす人々の生活を基に、その地域的特色を自然、歴史的背景、生活文化、産業の面から大観し理解している。 ・地球的課題である「環境保全」の在り方をめぐる問題について、必要な情報を適切な資料から読み取りまとめるとともに、近畿地方における事例を通して理解している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方における環境保全に向けた取り組みの在り方を、近畿地方における産業の発展と環境対策、観光と歴史的景観の保全の關係に着目し、自然、歴史的背景、生活文化、産業などの特色と関連付けながら多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に、環境保全に関する課題に対して、自分たちの生活とのつながりを踏まえながら、主体的に追究し解決しようとしている。

3. 近畿地方の指導計画案（5時間扱い）

時間（学習課題）	学習活動	◇指導上の留意点【評価】
<p>①近畿地方の自然環境 (日本最大の湖があり、日本海と太平洋に面する近畿地方には、地形や気候にどのような特色がみられるのか。)</p> <p>☆単元を貫く問いの設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書P.196-197の写真を基に、近畿地方について知っていることや府県名を発表し、地図帳で位置を確認する。 ○近畿地方のおもな港湾・河川・平野・盆地・高地・山地の名称と位置を地図帳で確認する。地図帳P.101①を参考に、近畿地方の断面図を大まかにえがく。 ○舞鶴、大阪、潮岬の雨温図から三都市の気候の特色を読み取り、その要因を地形との関わりから考える。 ○教科書P.199のコラムから震災被害の教訓から行われているまちづくりを、神戸市の例から考える。 <p>☆教科書P.196①, P.197④, ⑤の写真を振り返り、これらと関連して、以下の作業から近畿地方の学習を貫く問いを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳P.95-96①で琵琶湖から流れる瀬田川→宇治川→淀川を指でなぞり、京都・大阪の重要な水源となっていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇P.196-197の東大寺や清水寺の写真から、近畿地方の歴史的背景にふれる。 ◇断面図をえがかせ、中央部は北部と南部にある山地にはさまれ、低地になっていることに気づかせる。 ◇北部と中央部、南部の夏と冬の降水量の違いに着目し、気候の違いの要因を上記の断面図を基に考えさせる。 ◇P.199のコラムの本文から、阪神淡路大震災の教訓から学校が地域の重要な防災拠点とされたことに触れる。

・地図帳P.95②の地図から京都・奈良の世界遺産を読み取り，歴史的景観の保全が課題であるに気づく。

【知識・技能】

「近畿地方の自然環境の特色と歴史的遺産について，資料から読み取り，大観できているか」を評価する。

【単元を貫く問い】 近畿地方では，人口の増加や産業が発展する中で，どのように環境保全が行われてきたのだろうか。また環境保全の取り組みは人々の生活や地域にどのような影響を与えたのだろうか。

☆問いについての予測を立てる。

【主体的に学習に取り組む態度】

「近畿地方の自然環境の特色や歴史的建造物の資料から環境保全についての課題と対策及びその影響について予想しているか」を評価する。

②琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏（京阪神大都市圏の水源である琵琶湖とその周辺では，環境保全のためにどのような取り組みが行われてきたのか。）

○地図帳P.103-104の鳥瞰図より地形的に琵琶湖に流れ込む河川が多いことを確認する。

◇流れ込む河川は119本に対して流れ出るのは琵琶湖疎水と瀬田川の2本であることに触れる。

○教科書P.200②の琵琶湖・淀川水系の範囲の地図，地図帳P.95-96①の地図より，市街地の広がりから宇治川・淀川流域に都市が集中している理由を考える。

◇地形や気候などの地理的な要因のほか，ニュータウンの建設など交通や歴史など社会的な要因からも考えさせる。

○教科書P.200②，地図帳P.101②から，給水を受けている範囲，主な都市の琵琶湖・淀川水系の利用状況から，近畿地方は水資源を琵琶湖・淀川水系に大きく依存していることを理解する。

◇近畿地方における琵琶湖・淀川水系の役割を確認し，水質保全の必要性に気づかせる。

○教科書P.201④琵琶湖の水質の変化のグラフ，⑤のヨシの苗を植える写真を参考に，琵琶湖とその周辺では，環境保全のためにどのような取り組みが行われているかを調べ，まとめたことを発表する。

◇教科書本文から生活排水の対策，農薬の制限，合成洗剤の使用中止など様々な取り組みが行われてきたことをとらえさせ，④のグラフから完全な水質改善にはいたっていないことに気づかせる。

近畿地方では，人口の増加や産業が発展する中で，琵琶湖や淀川水系の水質の保全についてこれまでどのような取り組みが行われてきたのだろうか。

☆単元を貫く問いについて，琵琶湖周辺ではどのような環境保全が行われ，その取り組みによって流域の人々の生活や産業にどのような影響を与えたかを説明する（ワークシートに記

【知識・技能】

資料から「琵琶湖の水質改善のために，琵琶湖周辺の住民や滋賀県が行っている取り組みや，それが流域の人々の生活に与えている影響を理解している

<p>③臨海部の埋め立てと環境に配慮した工業 (阪神工業地帯では、環境問題に対してどのような取り組みが行われてきたのか。)</p>	<p>述する)。</p> <p>○教科書P.202①の写真から、工場の敷地と太陽光発電パネルの広大さに着目させ、何を造る工場か、パネルの電力はどのように活用されるのかを予想する。</p> <p>○教科書P.202③のグラフ、地図帳P.102④の地図から阪神工業地帯で盛んな工業の種類を読み取る。</p> <p>○教科書P.203⑥の地図、地図帳P.102④の地図から工場の分布を読み取る。</p> <p>○教科書P.202の本文から工業の発展にともなう1970年代の公害の発生とその対策としての工場移転を理解する。</p> <p>○教科書P.203⑦の写真、⑧のグラフから、中小企業の工場について理解するとともに、これらの工場による生活環境をめぐる問題について考える。</p>	<p>か」を説明させることで評価する。</p> <p>◇駐車場の車の大きさとの比較から広大な工場であること、環境に配慮した工場であることに気づかせる。</p> <p>◇グラフの内訳として地図帳P.102④の地図で具体的な工業の種類を読み取らせるとともに生産額が減少していることに気づかせる。</p> <p>◇主な工業地域が大阪湾の沿岸部、琵琶湖と淀川沿いに分布していることに気づかせる。</p> <p>◇資料集等から大気汚染、地盤沈下、水質汚染などの公害の状況を示した写真などを用意し、どのような対策がとられたか、教科書P.202の本文から読み取らせる。</p> <p>◇教科書P.203のコラムや本文から阪神工業地帯の歴史と中小企業の工場の重要性に気づかせるとともに、工場の多くが住宅地にあるために生じる騒音や振動などの環境問題とその対策について考えさせる。</p>
---	--	--

阪神工業地帯では、どのような環境問題があり、どのような取り組みがなされてきたのだろうか。

<p>④古都奈良・京都と歴史的景観の保全</p>	<p>○大気汚染、地盤沈下、水質汚染に対して工場排水の規制、工業用水リサイクル、太陽光発電の活用、騒音や振動に対する規制などの対策がされてきたことをまとめ、説明する(ワークシートに記述する。)</p> <p>☆単元を貫く問いについて、本時で学習したことを活かし、工場から発生する環境問題に対してどのような対策が取られ、人々の生活や地域がどう改善されたのかを説明する。</p>	<p>◇様々な取り組みにより環境問題が改善されてきたことや、工場と住民とが共存できる まちづくり などの努力に気づかせる。</p> <p>【知識・技能】 「工場から発生する環境問題が生活環境をめぐる問題であることに気づき、工場と住民が共生するために取られた対策は何かを理解し説明できているか」を評価する。</p> <p>◇地図帳P.100①、⑥の京都市と奈良市の中心部の地図から、京都・奈良ともに碁盤目状の街路であることを</p>
--------------------------	---	--

<p>(奈良と京都では、歴史的景観を保全していくために、どのような取り組みが行われているのか。)</p>	<p>○教科書P.204③のグラフから、近畿地方に歴史的建造物や文化財が多いことを読み取り、地図帳P.95②、P.99-100③の地図から世界遺産や文化財の名称・位置を確認する。</p> <p>○教科書P.204②の年次の違う2枚の二年坂の写真比較から変化を読み取り、その理由を考える。</p>	<p>確認し、平城京・平安京の歴史的対象を振り返らせる。</p> <p>◇京都・奈良がかつて都であったことから今なお数多くの文化財が存在していることに気づかせるとともに、建造物のほか、伝統行事や景観、食文化が残っていることにも触れる。</p> <p>◇世界文化遺産の清水寺の門前町であることに触れ、歴史的景観の維持のために電線・電柱を地中化したことを理解させる。</p>
--	---	---

京都・奈良では、歴史的景観を保全するためにどのような取り組みが行われてきたのだろうか。また、その取り組みは人々の生活や地域にどのような影響を与えたのだろうか。

	<p>○教科書P.205⑤の写真から、身近にあるコンビニエンスストアとの違いに注目し、デザインや色合いの工夫を読み取る。</p> <p>○教科書P.205⑥の資料やコラム本文から、京都市・奈良市や姫路市における景観保全の政策を理解する。</p>	<p>◇白や茶を基調とした和風なたたずまいに気づかせ、有数の観光地である八坂神社前の店舗であることを補足する。</p> <p>◇地方公共団体として景観保全に努めているとともに、地域の人々にとっては様々な規制や負担がともなうことに気づかせる。</p>
--	--	--

【新たな問い】なぜ、歴史的景観の保全をするのか。その意義について考えよう。

	<p>☆本時の学習から歴史的景観を保全する意義について、市役所、観光業に従事する人、地域の住民の立場で考え、意見交換する。(価値判断)</p>	<p>◇3人1グループとし、それぞれの立場を役割分担して、まずそれぞれの立場で考えをまとめ、その後グループ内で意見交換する。→グループ代表が発表する→各グループの発表を参考にして自分の意見を再構築する。</p> <p>【思考・判断・表現】 「学習を踏まえて歴史的景観の保全の意義について多面的・多角的に考察し、適切に表現している」かを評価する。</p>
<p>⑤環境に配慮した林業・漁業と環境保全 (近畿地方の林業・漁業では、環境保全のため</p>	<p>○教科書P.206①の吉野杉の床材を使ったレストランの写真から、日常生活と木材とのつながりを考え、吉野杉や尾鷲ひのきの産地を教科書P.206④の地図と地図帳P.93-94①、96①の地図で確認する。</p>	<p>◇我が国の生活における木材とのつながりから林業の重要性に気づかせる。</p>

<p>にどのような取り組みが行われているのか。)</p>	<p>○地図帳P.102⑥の図から、森林の多様な働きをまとめる。</p> <p>○教科書P.206③のグラフから、林業従事者の減少と高齢化の進展を読み取り、その理由と今後の課題を考える。</p>	<p>◇森林の様々な働きを確かめ、森林保全の重要性に気づかせる。また森林の役割の一つとして海への栄養補給があることから漁業との関わりにも触れる。</p> <p>◇林業従事者が約7分の1に減り、60歳以上が4割を超えていることから、林業の維持、森林保全の困難さに気づかせる。</p>
------------------------------	---	--

近畿地方の林業・漁業では、環境保全のためにどのような取り組みが行われてきたのだろうか。

<p>○教科書P.206④の地図から、企業による森づくりの活動の事例数を読み取る。</p> <p>○教科書P.207⑥の写真と本文から、紀伊山地における観光と景観保全の両立へ向けた人々の取り組みを読み取る。</p> <p>○教科書P.207⑧のグラフから、ズワイガニの漁獲量の減少を読み取り、その原因を考える。</p> <p>○教科書P.207のコラム、⑦の写真から英虞湾の干潟再生の取り組みや水産資源保護の取り組みを理解する。</p>	<p>◇持続可能な社会の視点から企業が森づくりの活動に参加していることに気づかせるとともに、2003年以降の「緑の雇用」支援事業などにより林業の新規事業者が増えていることに触れる。</p> <p>◇地図帳P.94の地図から、紀伊山地における世界遺産を確認し、観光客の増加による山道（熊野古道）への影響について気づかせる。</p> <p>◇乱獲や水質汚濁等の原因に注目させるとともに、その対策の必要性に気づかせる。</p> <p>◇環境に配慮した取り組みは近畿地方のみならず、全国各地で行われていることに触れる。</p>
--	---

【新たな問い】持続可能な社会に向けて近畿地方における環境保全への取り組みは、自分たちにとってどのような意義があるのだろうか。

<p>☆自分の考えの再構築</p>	<p>☆これまでの学習を振り返り、持続可能な社会に向けて近畿地方における環境問題への取り組みは、どのような意義があるのか、自分の考えをまとめる。 (価値判断)</p>	<p>【思考・判断・表現】 人々の生活と環境保全の両立について「様々な立場を踏まえ多面的・多角的考察し、適切に表現しているか」を評価する。</p> <p>【主体的に学習に態度】 これまでの単元全体の学習を踏まえ「近畿地方の環境保全の問題を自分事として捉え、考えをまとめようとしているか」を評価する。</p>
-------------------	---	---



簡単!

指導者専用

サイトのご案内

無料!

帝国書院「指導者専用サイト」では、小・中学校に勤務されている先生方に向けて、社会科の授業をサポートするコンテンツを多数ご用意しています。ご登録・ご利用料は無料です。ぜひ、ご登録ください。



※画像はイメージです。

ご利用いただけるおもなコンテンツ

- その1 楽しく学べる「ワークシート」
- その2 思考力を高める「授業案」
- その3 写真・動画を収録「プレミアム写真館」
- その4 世界・日本の「白地図」
- その5 ソート機能付き「最新統計」

ほかにも
コンテンツを
順次掲載中!

まずはお申し込みを!

Step 1



スマートフォン・
タブレットにも対応



↑帝国書院ウェブサイトトップページのバナーをクリック!
URLはこちら
<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>

↑スマートフォン・
携帯電話の方は
こちらから

Step 2

「新規登録はこちら」から、
利用規約にご同意のうえ、必
要事項を記入し、お申し込み
ください。

Step 3

およそ1週間以内に
ID、パスワード記載の登録者証
をご勤務先へ郵送
します!

収録コンテンツのご紹介

※内容は変更・修正する場合があります。

動画

アルゼンチン パタゴニア



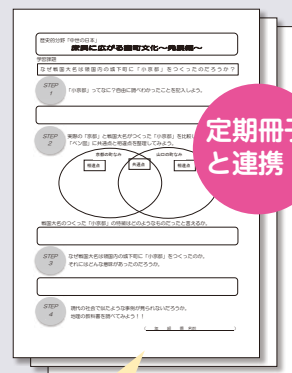
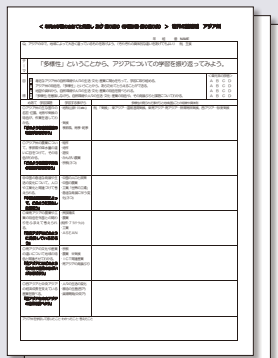
アラブ首長国連邦(UAE)



さらに
充実!

登録者限定! プレミアム写真館に動画を掲載!
世界各地の貴重な取材映像を公開しています!

授業研究コーナー対応ワークシート



定期冊子
と連携!

*イメージ画像は2019年度
1学期号のワークシートです。

定期冊子「中学校 社会科のしおり」授業研究をご執筆
の先生方による授業案に沿ったワークシートを掲載!



帝国書院 資料編集部

TEL 03-3262-0831 FAX 03-3262-0840
URL <https://www.teikokushoin.co.jp/>

2020年3月発行
©帝国書院 2020